



chie / d.

2023

10

Tokyo Philharmonic Orchestra Season 2023

2023シーズン定期演奏会

東京フィルハーモニー交響楽団



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
歴史を紡ぎ未来へと奏でるオーケストラの調べを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・サプライヤー

SONY

Rakuten

マルハニ

LOTTE

ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第157回東京オペラシティ定期シリーズ

10月18日(水) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

第990回サントリー定期シリーズ

10月19日(木) 19:00開演 サントリーホール

第991回オーチャード定期演奏会

10月22日(日) 15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

10/18

10/19

10/22

指揮：クロエ・デュフレーヌ

ヴァイオリン：中野りな*

コンサートマスター：近藤 薫

リリ・ブーランジェ：春の朝に<リリ・ブーランジェ生誕130年>(約6分)

サン＝サーンス：

ヴァイオリン協奏曲第3番 口短調 Op. 61* (約27分)

- I. アレグロ・ノン・トロッポ
- II. アンダンティーノ・クワジ・アレグレット
- III. モルト・モデラート・エ・マエストローアレグロ・ノン・トロッポ

ー 休憩 (約15分) ー

ベルリオーズ：幻想交響曲 Op. 14 (約50分)

- I. 「夢－情熱」
- II. 「舞踏会」
- III. 「野の情景」
- IV. 「断頭台への行進」
- V. 「サバトの夜の夢」

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等創造支援事業(創造団体支援))

独立行政法人日本芸術文化振興会(10/19)

協力：Bunkamura(10/22)



- ♪ 本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。
- ♪ 演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフがご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。
- ♪ 曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。
- ♪ 演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。
- ♪ 演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

出演者プロフィール



©Capucine de Chocqueuse

指揮

クロエ・デュフレーヌ

Chloé Dufresne, conductor

32歳の若く才能あふれる指揮者クロエ・デュフレーヌは、フィンランド、フランス、ノルウェー、アメリカで重要なオーケストラやオペラ・カンパニーを指揮してきた。オーケストラではヘルシンキ・フィル、フランス国立管、パリ国立管、モンペリエ・オペラ座管、ロサンゼルス・フィルなど、オペラではモーツァルト『ドン・ジョヴァンニ』、ベッリーニ『ノルマ』、ブリテン『アルバート・ヘリング』、オッフェンバック『赤いりんご』などをルーアン、トゥーロン、ニース、ロレーヌ国立等のオペラ座で指揮。2022/23シーズンはフランス各地の劇場でドニゼッティ『愛の妙薬』、グノー『ファウスト』、オッフェンバック『月世界旅行』を指揮。2023/24シーズンのハイライトは10月の東京フィルとの日本デビュー、香港フィル、フィンランド放送響、ザールブリュッケン・カイザースラウテルン放送響、ミュンヘン・フィル他とのコンサート、ブルターニュ国立管、モンペリエ国立オペラ管との再共演など。ヴィオラ、歌唱、合唱指揮を学んだ後、2020年にヘルシンキのシベリウス・アカデミーで指揮の修士課程を修了。M.フランク、P.ヤルヴィ、リントゥ、ジンマン、アデス、マルッキのマスタークラスを受講し、オラモ、ドゥダメル、ティルソン・トーマス、サロネンの副指揮を務め、ルツェルン音楽祭とロサンゼルス・フィルの指揮者フェロー・プログラムを修了。

2021年、若手指揮者の登竜門であるマルコ指揮者コンクールとブザンソン国際指揮者コンクールの両方に入賞し、2022/23シーズンのロサンゼルス・フィルのドゥダメル・フェローに続き、2023/24シーズンはドゥダメルの招きによりパリ・オペラ座アカデミーのフェローに選ばれている。

10/18

10/19

10/22



©kisekimichika

ヴァイオリン

中野りな

Lina Nakano, violin

2004年生まれ。3歳よりヴァイオリンを始め、桐朋学園大学音楽学部附属子供のための音楽教室にて森川ちひろに学ぶ。2015年よりザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学夏期国際音楽アカデミーにてポール・ロチェックの指導を受ける。2023年4月より桐朋学園大学「ソリスト・ディプロマ・コース」及び、9月からはウィーン市立芸術大学にも在学。現在、辰巳明子、カルヴァイ・ダリボルに師事し研鑽を積む。ローム ミュージック ファンデーション2023年度奨学生。

2018年第72回全日本学生音楽コンクール(中学校の部)優勝。2019年第3回若い音楽家のためのモーツァルトコンクール(中国・珠海)優勝。2020年第7回アリオン桐朋音楽賞受賞。2021年第90回日本音楽コンクール優勝。併せて岩谷賞、レウカディア賞、鷺見賞、黒柳賞、増沢賞を受賞。2022年第8回仙台国際音楽コンクールにおいて、史上最年少の17歳で優勝、及び聴衆賞を受賞し大きな注目を浴びる。以降、主要オーケストラとの共演やリサイタルなど活動を広げ、高い評価を得ている。

使用楽器: 一般財団法人ITOHより貸与されている1716年製のアントニオ・ストラディバリウス。

楽曲紹介

解説＝永井玉藻

クラシック音楽の世界で「フランスの作曲家」を問うと、真っ先に名前が上がるのがドビュッシーとラヴェルの二人だろう。しかし(当然ではあるが)、「フランス音楽」はこの2人の作品のみに代表されるわけではない。10月定期で演奏されるのは、20世紀初頭の革新的な気風の中を駆け抜けていったリリ・ブーランジェ、「古典的フランス精神の代表者」と言われるサン＝サーンス、そして管弦楽法の鬼才・ベルリオーズの作品である。今月は、19世紀から20世紀にかけて大きく発展したフランスの器楽曲の多面性を、期待の俊英の演奏でじっくりと楽しめる、「芸術の秋」ならではのプログラムである。

リリ・ブーランジェ 春の朝に

「早熟かつ早世の天才」「女性初のローマ大賞受賞者」。19世紀後半から20世紀前半のフランスに生きた作曲家たちの中でも、今年生誕130年を迎えたリリ・ブーランジェ(1893-1918)を彩るフレーズは、とにかくドラマティックである。

フランスの作曲家のプロフィールにたびたび登場する「ローマ賞」とは、作曲家を志す若者の登竜門とされるコンクール。応募資格は29歳未満の独身フランス人にあったが、20世紀初頭はまだ「作曲家＝男性の職業」との考え方が一般的な時代で、賞に挑戦した(できた)のも男性が圧倒的多数だった。その中でブーランジェは1913年に、19歳の若さで大賞、つまり第1位を勝ち取る。しかもその受賞は、2歳の時から苦しんだ免疫疾患の病軀を押してのものだった。

「春の朝に」は晩年の作品の一つで、同じくローマ大賞受賞者の父、エルネストに捧げられている。ヴィオラ以上の弦楽器によるスタッカートに支えられてフルートが奏するのが、楽曲に繰り返し登場する中心主題。ときおり金管楽器や打楽器が盛り上がりを見せるものの、全体としては弦楽器と木管楽器が主体となる。春の不安定な天気を思わせつつも、軽やかさに満ちた作品である。

【作曲年代】1918年 【初演】1921年3月13日、パリ音楽院にて、レーヌ・バトン指揮コンセルヴァトワールの演奏による

【楽器編成】ピッコロ、フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、打楽器(小太鼓、トライアングル、サスペンデッドシンバル)、ハーブ、チェレスタ、弦楽5部

サン＝サーンス

ヴァイオリン協奏曲第3番 口短調 Op. 61

ブーランジェのローマ大賞受賞の際、彼女の才能には、若手から重鎮に至るまで多くの作曲家が驚嘆した。その一人が、選考の審査員でもあったカミーユ・サン＝サーンス(1835-1921)である。晩年には保守的な作曲家とみなされ、激しいパッシングも受けたサン＝サーンスだが、オペラが「第一」のジャンルとされていた19世紀のフランス音楽界において、彼は特に交響曲の発展に尽力したことで名高い。また、ヴァイオリンを独奏とする協奏曲のジャンルでも、今日のレパートリーとなる作品を複数残した。2021年には没後100年を迎えたこともあり、フランスでもサン＝サーンスをテーマとした展覧会や学会が開催されるなど、生涯やこれまで着目されなかった作品にも、改めて光が当てられ始めている。

ヴァイオリン協奏曲第3番は1880年に完成し、初演時には作曲家の友人でもあった名ヴァイオリン奏者、パブロ・デ・サラサーテ(1844-1908)がソリストを務めた。ソナタ形式の**第1楽章**では、オーケストラの短い序奏に続いて、独奏ヴァイオリンがG線(ヴァイオリンの最も低い弦)上で力強い第1主題を提示する。長調の第2主題も独奏ヴァイオリンが奏するが、こちらはのびやかで歌唱的。**第2楽章**は穏やかな8分の6拍子の三部形式で、コーダの独奏ヴァイオリンのフラジオレット(弦を強く押さえず、軽く触れて倍音を出す奏法)とクラリネットによるアルペジオが聴きどころの一つである。**第3楽章**は打って変わって情熱的な独奏ヴァイオリンのソロから始まり、きびきびとしたリズムの第1主題と穏やかな第2主題、コラル風の主題の対比とともに、一貫して独奏ヴァイオリンの華やかな技巧が展開される。

【作曲年代】1879～80年 【初演】1880年10月15日、ハンブルクにてパブロ・デ・サラサーテの独奏による

【楽器編成】フルート2(2番はピッコロ持ち替え)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦楽5部、独奏ヴァイオリン

ベルリオーズ 幻想交響曲 Op. 14

「彼はなんでも知っている。でも彼には十分な経験が欠けている」。1864年に、サン＝サーンスが二度目にして最後のローマ大賞への挑戦に失敗したとき、ベルリオーズ(1803-1869)はこう述べたという。そのベルリオーズ自身も1830年に4回目の挑戦で大賞を得たのだが、その年に作曲されたのが『幻想交響曲』だった。

現代の日本風というなら、この作品は、作曲家の「推し活」がこじれにこじれた結果の産物である。1827年、ベルリオーズはパリのオデオン座に出演していた女優のハリエット・スミスソン(1800-1854)に強烈な恋心を抱いた。彼は舞台に通い詰め、スミスソンに手紙も出すが、一介のファンと「推し」との距離は縮まらない。ついには「大規模な曲を書けば、彼女が振り向いてくれるのでは?」という大胆な発想に至るものの、最終的にベルリオーズは別の女性との恋愛に落ちていた。

『幻想交響曲』は、その新たな恋愛の最中に書かれた作品で、「ある芸術家の生涯についてのエピソード」の原題がある。5つの楽章にはそれぞれ標題が付いており、さらに1845年に出版された楽譜には、作曲家自身による解説が付加された。

ちなみに『幻想交響曲』の発表後、またも恋に敗れたベルリオーズは、1832年にスミスソンと再会し結婚。ただし、二人の生活は長続きしなかった。作曲家が恋心を抱いたのは、スミスソン本人に対してだったのか、それとも「理想の女性」像に、だったのだろうか。



ハリエット・スミスソンの肖像(ジョージ・クリント作)
ベルリオーズはパリのオデオン座でシェイクスピア『ハムレット』を観劇し、オフィーリアを演じたスミスソンに恋心を抱いたという

第1楽章「夢一情熱」: ゆったりとした序奏部ののち、主部に入ってから第1ヴァイオリンが奏するのが、「恋人」の旋律。この旋律は作品を通して繰り返し登場し、さらに状況に応じて変形されて用いられる。

第2楽章「舞踏会」: ワルツの3拍子が華やかな楽章。ハーブが大活躍し、フルートとオーボエが「恋人」の旋律を奏する。

第3楽章「野の情景」: イングリッシュ・ホルンと舞台裏に配置されたオーボエによる「羊飼いの歌」が、のどかな田園地帯の夏の夕べに響く、穏やかな楽章。最後は4つのティンパニによって雷鳴が描写される。

第4楽章「断頭台への行進」: 夢の中で恋人を殺害した芸術家が、行進曲と共に断頭台へ向かう。「恋人」の旋律は途中で断ち切れ、劇的に楽章が終わる。

第5楽章「サバトの夜の夢」: 分割された弦楽器の不気味な半音階に続き、装飾音符で変形された「恋人」の旋律が加わる。グレゴリオ聖歌「怒りの日」と共に吊いの鐘の音が鳴り、弦楽器の特殊奏法も登場するなど、聴きどころ満載の楽章。

【作曲年代】1830年 【初演】1830年12月5日、パリ音楽院にてフランソワ・アブネックの指揮による

【楽器編成】フルート2(2番はピッコロ持ち替え)、オーボエ2(2番はイングリッシュ・ホルン持ち替え)、クラリネット2(2番はエス[E♭]・クラリネット持ち替え)、ファゴット4、ホルン4、トランペット2、コルネット2、トロンボーン3、チューバ2、ティンパニ(2名)、打楽器(小太鼓、大太鼓、シンバル、鐘)、ハーブ2、弦楽5部 【バンド】オーボエ

ながいたまも／パリ第4大学博士課程修了、博士(音楽学)。専門は西洋音楽史(特に19～20世紀のフランス音楽、バレエ)。現在、慶應義塾大学、白百合女子大学などにて非常勤講師を務めている。2023年1月に『バレエ伴奏者の歴史 19世紀パリ・オペラ座と現代、舞台裏で働く人々』(音楽之友社)を出版。毎日新聞書評欄など各種メディアにて取り上げられ、発売から6ヶ月で重版となっている。

The 157th Tokyo Opera City Subscription Concert

Wed. Oct. 18, 2023, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 990th Suntory Subscription Concert

Thu. Oct. 19, 2023, 19:00 at Suntory Hall

The 991st Orchard Hall Subscription Concert

Sun. Oct. 22, 2023, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

Chloé Dufresne, conductor

Lina Nakano, violin

Kaoru Kondo, concertmaster

Lili Boulanger:

D'un matin de printemps (Of a Spring Morning) (ca. 6 min)

<The 130th anniversary of Lili Boulanger's birth>

Saint-Saëns:

Violin Concerto No.3 in B minor, Op. 61* (ca. 27 min)

- I. Allegro non troppo
- II. Andantino quasi allegretto
- III. Molto moderato e maestoso – Allegro non troppo

— intermission (ca. 15 min) —

Berlioz: Symphonie Fantastique, Op. 14 (ca. 50 min)

- I. Visions and Passions
- II. A Ball
- III. In the country
- IV. The Procession to the Stake
- V. A witches' sabbath

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |

Japan Arts Council (Oct. 19)

In Association with **Bunkamura** (Oct. 22)



- ♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- ♪ Hold applause please. Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

Artists Profile



©Capucine de Chocqueuse

Chloé Dufresne, conductor

A prize winner at both the 2021 Malko and Besançon Conducting Competitions, Chloé Dufresne was a Conducting Fellow at the 2022 Lucerne Festival and a Dudamel Fellow with the Los Angeles Philharmonic for the 22/23 season, and Gustavo Dudamel subsequently invited her to the Opéra de Paris Académie for 23/24.

Dufresne, a brilliant young conductor at 32, has conducted important orchestras and opera companies in Finland, France, Norway and the United States. Her orchestra engagements include the Helsinki Philharmonic, Orchestre National de France, Orchestre de Chambre de Paris, Orchestre National de Lille, Orchestre de l'Opéra de Montpellier, Norwegian Radio Orchestra, and Los Angeles Philharmonic.

She has conducted opera productions including Mozart's *Don Giovanni*, Bellini's *Norma*, Britten's *Albert Herring*, Offenbach's *Pomme d'Api* for several opera theaters, and a Bayreuth production of Wagner's *Ring* for children at the Helsinki Festival.

Last season she conducted a new production of Donizetti's *L'elisir d'amore* for Angers Nantes Opéra, Gounod's *Faust* for Opéra de Vichy and Offenbach's *Le Voyage dans la Lune* at opera houses in Massy, Metz, Reims, and Rouen. Highlights of the 2023/24 season include her Japanese debut with the Tokyo Phil, concerts with the Hong Kong Phil, Finnish Radio Symphony, and Munich Phil.

Dufresne studied viola, singing, and choral conducting before completing her Masters in conducting from the Sibelius Academy in Helsinki in 2020 where her teachers included Atso Almila, Sakari Oramo, and Alain Altinoglu. She attended masterclasses with Mikko Franck, Paavo Järvi, Hannu Lintu, David Zinman, Thomas Adès, and Susanna Mälkki, and has assisted Sakari Oramo, Gustavo Dudamel, Michael Tilson Thomas, and Esa-Pekka Salonen, completing Conducting Fellows programs at the Lucerne Festival and the Los Angeles Philharmonic.

18
Oct19
Oct22
Oct



©kisekimichiko

Lina Nakano,
violin

NAKANO Lina was born in Tokyo in 2004. She started playing the violin at the age of 3, and studied under Ms. MORIKAWA Chihiro at the Music School for Children affiliated with the Toho Gakuen College Music Department. Since 2015, Lina has been playing the violin under Prof. Paul ROCZEK's tutelage at the Mozarteum International Summer Academy in Salzburg on a regular basis. She is currently enrolled in the soloist diploma course at Toho Gakuen School of Music, and studies under Prof. TATSUMI Akiko. She is also studying with Professor Dalibor Karvay at the Music and Arts University of the City of Vienna. In addition, she is a 2023 ROHM Music Foundation scholarship student.

She also secured first prize at the 72nd Student Music Concours of Japan (Junior high school student section), the 3rd Zhuhai International Mozart Competition for Young Musicians (China) in 2019, and at the 90th Music Competition of Japan in 2021. During this time, several awards were bestowed upon her including the Iwatani Award, the Leucadia Award, the Sumi Award, the Kuroyanagi Award, and the Masuzawa Award. She was also presented with the 7th Arion-Toho Music Award in 2020. At the 8th Sendai International Music Competition in 2022, at age 17, Lina made history by becoming the youngest first prize winner of the event to date, and in addition was awarded the Audience Prize for which she received much media attention.

She plays a 1716 Stradivarius on loan from the ITOH Foundation.

Program Notes

Text by Robert Markow

Lili Boulanger: *D'un matin de printemps* (Of a Spring Morning)

Lili Boulanger was born to a Russian princess and a 77-year-old Parisian father.

Marie-Juliette Olga Boulanger, to give “Lili” her full name, was prodigiously gifted, learning not only composition but also piano, organ, voice, violin, cello, and harp. She was the first woman to win the Prix de Rome composition prize (1913), and one of the most important women composers of the early twentieth century despite her mere 24 years. Lili’s name lives on not only on her own merits but by virtue of association with her older sister Nadia, one of the twentieth-century’s leading teachers of composition. Nadia was also a composer and also a Prix de Rome winner (Second Prize in 1908), but after Lili’s death declined to write anything more, declaring everything she had composed up to that point as “worthless.” Nadia’s life was as long (92 years) as Lili’s was short. In 1927 the asteroid 1181 Lilith was named after her.

D’un matin de printemps (Of a Spring Morning) was Boulanger’s last orchestral work, completed in January 1918 shortly before her death. It originated the year before as a duet for violin and piano, then became a piano trio, then a duet for flute and piano. Each version was slightly different. The six-minute orchestral version was first performed on March 13, 1921 at the Paris Conservatoire with Rhené-Baton conducting the orchestra of the Concerts Padeloup.

The influence of Debussy is immediately apparent in this bright, cheerful composition. Though written for full orchestra, it combines and blends each color field in multifarious subtle hues and textures. Playful moments abound as the music passes through various short episodes of contrasting mood and character. The orchestration throughout is imaginative and highly accomplished, especially for a 24-year-old. Even Debussy was not orchestrating at this level at 24.

18
Oct

19
Oct

22
Oct

LILI BOULANGER: Born in Paris, August 21, 1893; died in Mézy-sur-Seine (northwest of Paris), March 15, 1918

Work composed: 1918 **World premiere:** March 13, 1921 at the Paris Conservatoire, by the Concerts Padeloup conducted by Rhené-Baton

Instrumentation: piccolo, 2 flutes, 2 oboes, English horn, 2 clarinets, bass clarinet, 2 bassoons, contrabassoon, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, tuba, percussion (snare drum, triangle, suspended cymbal), harp, celesta, and strings

Saint-Saëns: Violin Concerto No.3 in B minor, Op. 61

It is common knowledge that Mozart was a child prodigy, but few people realize that Saint-Saëns was every bit Mozart's equal and then some in this respect. At the age of three he was playing tunes on the piano; at five he was reading full orchestral scores; at ten he gave his piano debut recital. His exceptionally long life stretched across several generations of composers – how many other men could claim to have personally known both Berlioz and Stravinsky? He had perfect pitch and perfect memory, could sightread anything, and wrote lively criticism. In 1908, he became the first famous composer to write music specifically for a film (Charles Pathé's *The Assassination of the Duke of Guise*).

As for his music, if it fails to plumb the emotional depths, it certainly compensates in elegance, charm and grace. The author Romain Rolland commented that “he was the only great composer who was not a genius.” Saint-Saëns excelled in a specific style, and he did it supremely well. A sense of effortlessness and natural facility pervades his music. He composed “as naturally as a tree produces apples,” to quote the man himself. Among his more than 300 compositions are eight for solo violin and orchestra: five brief showpieces (*Havanaise*, *Introduction and Rondo Capriccioso*, etc.) and three concertos.

The virtuoso Pablo de Sarasate gave the first performance of the Third Concerto on October 15, 1880 in Hamburg. Among the more notable of the many felicitous moments in the work, one can point to the opening theme played by the soloist in the violin's low range where its tone is at its richest and most expressive; the spectacular series of arpeggios that close the movement

and take the soloist ever higher into the stratosphere; the elegant and languid barcarole tune sung by the soloist in the slow movement; the haunting effect at the end of the movement where the solo violin plays slow arpeggios in harmonics two and three octaves above a clarinet in its *chalumeau* (low) register; the dramatic recitative for violin and orchestra that opens the finale; the movement's wide-ranging, catchy, impeccably written principal theme in the gypsy style; and the soloist's varied developments of the chorale-like theme that is first presented by the orchestra's full violin section.

CAMILLE SAINT-SAËNS: Born in Paris, October 9, 1835; died in Algiers, December 16, 1921

Work composed: 1879-80 **World premiere:** October 15, 1880 in Hamburg, with Pablo de Sarasate as the soloist

Instrumentation: 2 flutes (2nd doubling on piccolo), 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 2 horns, 2 trumpets, 3 trombones, timpani, strings, solo violin

Berlioz: Symphonie Fantastique, Op. 14

Berlioz' *Symphonie fantastique* stands at the very pinnacle of the genre known as the "program symphony." By the composer's own admission, Goethe's *Faust* contributed to the inspiration that produced the *Symphonie fantastique*. The power and originality of Beethoven's symphonies, especially the *Eroica*, and the depth of vision embodied in Shakespeare plays also fed Berlioz' emotional and psychic appetite. But by far the strongest and most direct influence on the composition of the symphony was a young Shakespearean actress, Harriet Smithson, who appeared in Paris as Ophelia and Juliet in productions by a touring company from England.

When Berlioz first saw Harriet on stage on September 11, 1827, he was so overwhelmed and consumed with passion for her that he became like a man possessed. His physical and mental turmoil are extravagantly expressed in numerous letters, from which the following excerpt is characteristic: "I am again plunged in the anguish of an interminable and inextinguishable passion, without motive, without cause. ... I hear my heart beating, and its pulsations shake me as the piston strokes of a steam engine. Each muscle of my body shudders with pain. In vain! 'Tis terrible! Oh unhappy one!"

All this, three years after he had first laid eyes on Harriet, and Berlioz still hadn't met her face to face!

In a heroic gesture designed to attract her attention to his burning love, this most romantic of Romantics wrote his *Fantastic Symphony: Episode in the Life of an Artist* to prove to her that he too was a dramatic artist. The performance took place on December 5, 1830, though Harriett apparently was unaware of the event. Two years later, Berlioz revised the symphony and created a long sequel, *Lélio, or The Return to Life*, preceded by an extended spoken monologue. He mounted a production of this triple bill, contriving through friends to have Harriet in attendance this time. This event took place on December 9, 1832. The ruse worked: Berlioz eventually met Harriet and married her a few months later, but it was not a happy union, and they separated after a decade, by which time Berlioz already had a mistress.

The most prominent autobiographical element of the score is the use of the *idée fixe*, a melody that recurs throughout each of the five movements in varying guises – fervent, beatific, distant, restless, diabolical, etc., depending on the changing scene. This *idée fixe* (a term borrowed not from music but from the then-new science of psychology) actually operates on two levels, for it can also be regarded as a quasi-psychological fixation which possesses the music as it possesses the thoughts of the artist of the program.

The drug-induced fantasy world of the symphony is only one of its unusual and original aspects. Not just the content, but the degree of detail Berlioz provided paved the way for the tone poems of Liszt and Strauss. Another novelty was the use of the orchestra as a giant virtuoso instrument for the conductor to play upon. (The concept of conducting as a role apart from instrumental participation was still in its infancy.) But above all, it is the myriad examples of orchestral effects and tonal colors that make this work so endlessly fascinating: the otherworldly wisps of sound high in the violins in the slow introduction; the distant, plaintive oboe and English horn calls, and the threatening thunderstorm heard on four differently-tuned timpani in the third movement; the terrifying brass and drum effects in the March; the grisly scrapings and twitterings in the introduction of the last movement, followed by the diabolical parody of the *idée fixe* in the high E-flat clarinet accompanied by a galloping figure on four bassoons; then comes the *Dies irae* theme in the tubas, accompanied by deep bells. The list could go on and on ...

18
Oct19
Oct22
Oct

HECTOR BERLIOZ: Born in La Côte-Saint-André, near Grenoble, December 11, 1803; died in Paris, March 8, 1869

Work composed: 1830 **World premiere:** December 5, 1830 in Paris, conducted by François Antoine Habeneck

Instrumentation: 2 flutes (2nd doubling on piccolo), 2 oboes (2nd doubling on English horn), 2 clarinets (2nd doubling on Eb-clarinet), 4 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, 2 cornets, 3 trombones, 2 tubas, 2 timpani, percussion (snare drum, bass drum, cymbals, tubular bells), 2 harps, strings / offstage: oboe

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for numerous orchestras and other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal's McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

18
Oct

19
Oct

22
Oct

Next Subscription Concert

November

Single tickets available

conductor: Andrea Battistoni, chief conductor **cello: Haruma Sato**

Fri, Nov 10, 19:00
at Suntory Hall

Sun, Nov 12, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Thu, Nov 16, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Tchaikovsky:
The Tempest
Variations on a Rococo Theme
Hamlet
Romeo and Juliet Fantasy Overture
<The 130th anniversary of Tchaikovsky's death>

Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: 03-5353-9522 (weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)

Tokyo Phil WEB Ticket Service <https://www.tpo.or.jp/en/>



2024 season Subscription Concerts Lineup

We are pleased to inform dear audience the Tokyo Phil's 2024 season subscription lineup! Please join us the ultimate concert experience by subscribing to our concert series. You can select from 3 subscription series at Tokyo's top venues, Bunkamura Orchard Hall, Tokyo Opera City Concert Hall, and Suntory Hall. You will enjoy the best seats at the best price, priority purchase status, and the flezibility of free ticket exchanges within the same month all season long.

For more details, please access our website! <https://www.tpo.or.jp/en/>

January

conductor: Mikhail Pletnev, special guest conductor **piano: Martin Garcia Garcia**

Tue, Jan 23, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Thu, Jan 25, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Jan 28, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Sibelius: Karelia Suite

Grieg: Piano concerto

Sibelius: Symphony No.2

February

conductor: Myung-whun Chun, honorary music director

Thu, Feb 22, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Sun, Feb 25, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Feb 27, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Beethoven:

Symphony No. 6 "Pastoral"

Stravinsky:

Ballet "The Rite of Spring"

March

conductor: Andrea Battistoni, chief conductor and more

Sun, Mar 10, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Wed, Mar 13, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Fri, Mar 15, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Respighi:

Ancient Airs and Dances Suite No. 2

Orff:

Carmina Burana

June

conductor: Myung-whun Chun, honorary music director

piano: Keigo Mukawa **Ondes Martonot: Takashi Harada**

Sun, Jun 23, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Mon, Jun 24, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Wed, Jun 26, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Messiaen:

La Turangalila-symphonie

July

conductor: Dan Ettinger, conductor laureate **piano: Tomoki Sakata**

Wed, Jul 24, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Jul 28, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Mon, Jul 29, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Mozart:

Piano concerto No. 20

Bruckner:

Symphony No. 4 "Romantic"

<The 200th anniversary of Bruckner's birth>

September

conductor: Myung-whun Chun, honorary music director and more

Sun, Sep 15, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Sep 17, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Thu, Sep 19, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Verdi:

opera *Macbeth*

Concert-Style Opera in four acts with Japanese surtitles
Libretto by Francesco Maria Piave and Andrea Maffei
from William Shakespeare's *Macbeth*

October

conductor: Daichi Deguchi violin: **Moné Hattori**

Thu, Oct 17, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Fri, Oct 18, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Oct 20, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Khachaturian:

Experts from "The Valencian widow" suite

Fazil Say:

Violin concerto "1001 Nights in the Harem"

Kodály: Dances of Galánta

Kodály: Variations on a Hungarian Folksong
"The Peacock"

November

conductor: Andrea Battistoni, chief conductor

Wed, Nov 13, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Nov 17, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Nov 19, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Mahler:

Symphony No. 7 "Nachtmusik"

Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: **03-5353-9522**
(weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)

Tokyo Phil WEB Ticket Service <https://www.tpo.or.jp/en/>



東京フィルだより — 2023年シーズン今後の定期演奏会

11月の定期演奏会

第992回サントリー定期シリーズ

11月10日(金) 19:00 サントリーホール

第993回オーチャード定期演奏会

11月12日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

第158回東京オペラシティ定期シリーズ

11月16日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

指揮：アンドレア・バッティストーニ（首席指揮者）

チェロ：佐藤晴真*

（2019年ARDミュンヘン国際音楽コンクール優勝）

〈チャイコフスキー没後130年〉

チャイコフスキー／

幻想曲『テンペスト』

ロココの主題による変奏曲*〈原典版〉

幻想序曲『ハムレット』

幻想序曲『ロメオとジュリエット』



〈シェイクスピアの戯曲より〉

『テンペスト(あらし)』(全5幕・1611年初演) … 国を追われて孤島に暮らすミラノ大公の兄プロスペローとその娘ミランダのもとに、ナポリ王父子やプロスペローの弟アントーニオら一行が嵐に遭い漂着する。その嵐はプロスペローが魔法の力で起こしたものだ。島で父らとはぐれたナポリ王子ファーディナンドはミランダと恋に落ち、さまざまな試練を乗り越えて結ばれる。プロスペローは自身を陥れた人々をも赦し大団円を迎える。チャイコフスキー／幻想曲『テンペスト』は1873年作曲。

『ハムレット』(全5幕・1601年頃) … シェイクスピアの四大悲劇の一つ。デンマークの王子ハムレットが、父王を毒殺して王位に就き母を妃とした叔父クロディアスに復讐する物語。ハムレットの想い人で宰相の娘オフィーリアは悲劇の中で狂死し、ハムレット自身も復讐を果たした後にこの世を去る。「To be, or not to be, that is the question.」の台詞が有名。チャイコフスキー／幻想序曲『ハムレット』は1888年作曲。

『ロミオとジュリエット』(全5幕・1595年頃) … イタリアの古都ヴェローナが舞台。敵対する両家、モンタギュー家のロミオとキャピュレット家のジュリエットが恋に落ち、周囲の無理解に苦しみながら神父ロレンスの導きにより「仮死状態の薬」を使って両家を欺き逃亡を計画するが、行き違いにより二人とも命を落としてしまう。ヴェローナはバッティストーニの故郷でもある。チャイコフスキー／幻想序曲『ロメオとジュリエット』は1869年作曲。

【料金】1回券 SS¥15,000 S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,500

*東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)。

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522 (10時～18時／発売日を除く土日祝休)
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

11月定期演奏会の聴きどころ

特別対談

シェイクスピアとチャイコフスキー
～音が語る、物語の世界

翻訳家

松岡和子

首席指揮者

× アンドレア・バッティストーニ

11月定期演奏会は首席指揮者アンドレア・バッティストーニが登場。英国の劇作家ウィリアム・シェイクスピアの作品から、作曲家チャイコフスキーがインスピレーションを得て生まれた作品を軸にお届けします。シェイクスピア戯曲37作品の完訳という偉業で著名な翻訳家・松岡和子さんとマエストロ バッティストーニとの対談より、チャイコフスキーの音楽の魅力に焦点を当ててお届けします。

※本記事は2023年3月に行われた対談記事を再構成しています。

(通訳: 井内美香 / 撮影: 寺澤有雅)

「作曲家が物語に触発されて作曲する場合、まず何から作るのか」

松岡(以下、M) 私にとって音楽でずっとミステリアスだったのは、画家が物語を読んで絵にする……それは具体的なシーンや、あるいはキャラクターだったりします。作曲家は「この場面にはこの音楽」というふうにインスパイアされると思っていたのだけれど、今度11月に取り上げるチャイコフスキーの3つの曲(幻想曲『テンペスト』、幻想序曲『ハムレット』、幻想序曲『ロメオとジュリエット』)は、場面と音楽がはっきりと結びついているわけではない。そこで、作曲家が物語を読んでインスパイアされて作曲する場合、まず何から作るのか、お伺いしたいのです。



ミレー作『オフィーリア』(1851-1852、テート・ブリテン美術館蔵)
シェイクスピアの戯曲『ハムレット』のキャラクター、オフィーリアが
登場する一場面を描いてる



ウィリアム・シェイクスピア
(1564-1616)

バツティストーニ(以下、B) とても特別な道筋が頭の中にあるのだと思います。チャイコフスキーはシェイクスピア作品を確実に読んだと思います。当時のロシアの作曲家にとってシェイクスピアの作品を劇場の舞台で観るということはとても難しかったはずで、チャイコフスキーだけでなく、ベルリオーズもワーグナーも、他の作曲家も、当時、シェイクスピアからインスピレーションを得た作曲家たちは、もとの戯曲を読んで頭の中で映画が上映されるようにしてどんなことが起こったのかということを作って、そこからのイマジネーションで作曲したのだと思います。たとえば、幻想曲『テンペスト』の始めのところは、冷たい、動きがない感じ。『テンペスト』の物語を知っていて、その音楽だと思って聴けば「海なんじゃないか」、音楽に動きが出てくると「これは嵐なんじゃないか」、カンタービレのメロディが出てくると「これは愛のシーンなんじゃないか」。でも、それは後付けであって、まずは音楽ありきです。

M 指揮をするときに、バツティストーニさん自身は海や風とかをイメージすることはないのですか？ 同じチャイコフスキーで同じシェイクスピアから素材をとっていても、聴いている私はどちらかというと、幻想曲『テンペスト』からは絵(場面)が浮かんできた。幻想序曲『ロメオとジュリエット』の場合は騒乱の中を2人の愛の気持ちが流れていく、という感じがありました。幻想序曲『ハムレット』は不思議なことにあまり絵が浮かばなくて、むしろハムレットという人格の中で、あれこれ考えたり落ち込んだり……。

B ええ、私もそう感じます。チャイコフスキーがまるで演出家のようにこの3つの作品の解釈を提示しているということでもありますね。「どこにスポットライトを当てようか」「こういうキャラクターやシチュエーションを描こう」と。シェイクスピアが一番深く感じて書いた場面にチャイコフスキーも光を当てて書いているけれど、もしかすると、それはチャイコフスキーの個人的な感性で感じたところかもしれません。

チャイコフスキーの読みはとてもヨーロッパ的ですが、ロシアの要素もすごくあると思います。たとえば幻想序曲『ロメオとジュリエット』の最初の方で、ロレンス神父を描いているだろうなという部分は私にはカトリックの神父ではなくてロシア正教の神父さんに感じられます。チャイコフスキーは、ロシアでは西欧寄りの作曲家だと非難されましたが、彼自身は非常に深くロシア的なところもありました。ヨーロッパ的な面とロシア的な面が拮抗しているところがチャイコフスキーの大きな特徴なのです。

すべての芸術ってトランスレーションだと思っているんです。

M 私にとって音楽を創る世界というのはとても特別です。19世紀の文芸評論家のウォルター・ペイターという人の言葉に「All arts constantly aspires towards the condition of music.」（すべての芸術はたえず音楽の状態に憧れる）というものがあります。画家であれ彫刻家であれ、詩人であれ、みんなアスパイア（熱望）するのが音楽。だから小説や戯曲を読んでも、みんな音楽へと向かっていくという。私は翻訳家、トランスレーターなんですけれど、すべての芸術ってトランスレーションだと思っているんです。



B 19世紀はまさに、こういうスタイルの標題音楽の時代でした。音楽が音楽の中だけで完結せずに、音楽自身から外に出ようとした試みです。音楽が言葉に近い働きをしようとした。でも、音楽は言葉ではありませんから、音楽について話をしなければいけないとき、音楽家どうしても文学的・絵画的なメタファーで話すことが多いですね。音楽はある意味で捕まえられないものである一方、私たちはそれを描写したい、書き留めたいと思うわけです。

M 私はシェイクスピアの作品を日本語に翻訳してきて、私の翻訳を使った実際の舞台上演で色々な感想をいただくけれど、言葉に関して私が嬉しいのは「松岡さんの翻訳が良いわね」よりも「シェイクスピアの言葉って素敵ね」と言われることです。パッティストーンさんも「すごくいい指揮だね」と言われることももちろん嬉しいだろうけれど、それ以上に嬉しいのは「いい音楽だね」と言われることじゃないかなと思ったのですが。

B まさにそうです。そんなことが何度もありました。一番嬉しい大きな賞賛は、オーケストラのメンバーが私のところに来て、これまでやっている曲をよくわかっていなくて好きじゃなかったけれど、いま一緒にやっているるとよくわかるし好きだなと言ってくれるということ。同じことですね。私たちの仕事が、その作者の精神を翻訳することだからなのだと思います。

M おそらくそういう気持ちで演奏家が演奏すれば、お客さんに届きますね。

B そう思います。



対談の話題は多岐にわたりました

本記事の全文はウェブサイトで公開中です。

<https://www.tpo.or.jp/information/detail-20230502-01.php>



松岡和子(まつおかかずこ)／昭和17年、旧満州生まれ。東京女子大学英文科卒業。東京大学大学院修士課程修了。翻訳家、演劇評論家として活躍する傍ら、東京医科歯科大学教養学部の英語教授を務める(平成9年、シェイクスピアの翻訳に専念するため退任)。シェイクスピア戯曲の新訳の他、『クラウド9』など訳書多数。著書に『深読みシェイクスピア』などがある。

News & Information

2022年10月定期『ファルスタッフ』が 第20回三菱UFJ信託音楽賞「奨励賞」受賞

東京フィルは第976回サントリー定期シリーズ(2022年10月20日 サントリーホール)において上演いたしましたヴェルディ／歌劇『ファルスタッフ』オペラ演奏会形式(東京フィル名誉音楽監督 チョン・ミョンフン指揮・演出)により第20回三菱UFJ信託音楽賞 奨励賞を受賞いたしました。同賞は、公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団が助成する2022年度の公演の中から優れた公演として選定するものです。関係各位にご報告申し上げますとともに、篤く御礼申し上げます。



【提携都市公演】文京シビックホール 響きの森クラシック・シリーズVol.79

日時・会場 2024年3月9日(土) 15:00開演

文京シビックホール 大ホール

出演 指揮: アンドレア・パッティストーニ(首席指揮者)
ピアノ: 阪田知樹*

曲目 ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第3番*
ラヴェル／道化師の朝の歌
ラフマニノフ／ヴォカリーズ
ラヴェル／ボレロ

料金 S¥5,500 A¥4,500 B¥3,500

発売日 最優先(東京フィル賛助会員・定期会員)／優先(東京フィルフレンズ会員) 発売中
一般発売 10月24日(火)10時～

※最優先・優先販売期間中に完売となった場合は一般発売を行いません。

チケット問合せ 東京フィルチケットサービス 03-5353-9522(平日10:00～18:00)
東京フィルWEBチケットサービス tpo.or.jp



©上野隆文

©Ayustet

10月よりトロンボーン・セクションに藤田恵輔(ふじた けいすけ)が入団しました。

「はじめまして、トロンボーン・セクションの藤田恵輔です。

この度、歴史ある東京フィルハーモニー交響楽団の一員として皆様にお目にかかることを、大変嬉しく光栄に思います。

今までずっと憧れてきた楽団員の皆様と同じステージで音楽を作り上げていくことに、少なからずプレッシャーを感じておりますが、オーケストラの奏でる音楽の素晴らしさを皆様と共有できるよう、精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします」。





指揮：
ミハイル・プレトニョフ
特別客演指揮者
ピアノ：
マルティン・ガルシア・ガルシア*



指揮：
チョン・ミョンフン
名誉音楽監督



指揮：
アンドレア・バッティストーニ
首席指揮者
※出演者調整中



指揮：
チョン・ミョンフン
名誉音楽監督
ピアノ：務川慧悟
オンド・マルトノ：原田 節

シーズンオープニング

シベリウス
組曲『カレリア』
グリーゲ
ピアノ協奏曲イ短調*
シベリウス
交響曲第2番ニ長調

ベートーヴェン
交響曲第6番
『田園』へ長調
ストラヴィンスキー
バレエ音楽
『春の祭典』

レスピーギ
リュートのための古風な舞曲と
アリア 第2組曲
オルフ
世俗カンタータ
『カルミナ・ブラーナ』

メシアン
トゥランガリーラ
交響曲

オーチャード定期演奏会

開演15:00／開場14:15 Bunkamura オーチャードホール

第995回	1.28(日)	第997回	2.25(日)	第998回	3.10(日)	(第1000回)	6.23(日)
-------	---------	-------	---------	-------	---------	----------	---------

東京オペラシティ定期シリーズ 開演19:00／開場18:15 東京オペラシティ コンサートホール

第159回	1.25(木)	第160回	2.27(火)	第161回	3.13(水)	第162回	6.26(水)
-------	---------	-------	---------	-------	---------	-------	---------

サントリー定期シリーズ 開演19:00／開場18:15 サントリーホール

第994回	1.23(火)	第996回	2.22(木)	第999回	3.15(金)	第1001回	6.24(月)
-------	---------	-------	---------	-------	---------	--------	---------

2024
シーズン

東京フィルハーモニー交響楽団





指揮：
ダン・エッティンガー

桂冠指揮者
ピアノ：阪田知樹*

指揮：
チョン・ミョンファン

名誉音楽監督
※出演者調整中

指揮：
出口大地

ヴァイオリン：服部百音*

指揮：
アンドレア・バッティストーニ

首席指揮者

モーツァルト
ピアノ協奏曲第20番*
ニ短調

ブルックナー
**交響曲第4番
『ロマンティック』**

変ホ長調（ノヴァーク版）
〈ブルックナー生誕200年〉

オペラ演奏会形式

ヴェルディ
歌劇『マクベス』

全4幕・日本語字幕付き原語（イタリア語）上演
公演時間：約2時間45分（休憩含む）

ハチャトゥリアン
『ヴァレンシアの寡婦』組曲より
ファジル・サイ
ヴァイオリン協奏曲
『ハーレムの千一夜』*

コダーイ
ガランタ舞曲
コダーイ
ハンガリー『孔雀は飛んだ』による
民謡 変奏曲

マーラー
**交響曲第7番
『夜の歌』**ホ短調

オーチャード定期演奏会

開演15:00／開場14:15 Bunkamura オーチャードホール

第1002回 **7.28(日)**

第1004回 **9.15(日)**

第1007回 **10.20(日)**

第1008回 **11.17(日)**

東京オペラシティ定期シリーズ

開演19:00／開場18:15 東京オペラシティ コンサートホール

第163回 **7.24(水)**

第164回 **9.19(木)**

第165回 **10.18(金)**

第166回 **11.13(水)**

サントリー定期シリーズ

開演19:00／開場18:15 サントリーホール

第1003回 **7.29(月)**

第1005回 **9.17(火)**

第1006回 **10.17(木)**

第1009回 **11.19(火)**

定期演奏会ラインナップ発表！

【定期会員・特典】

- 特典1 専用指定席 シーズンを通して同じお席を確保いたします。
- 特典2 特別価格 1回券を同じ回数分購入するよりもお得です。
- 特典3 最優先販売 主催公演のチケットを最優先でご案内します。
- 特典4 会場のお振替 同月の他会場定期演奏会へお振替いたします（一部対象外あり）。
- 特典5 各種イベントご案内 会員様限定イベント、オンライン企画をご案内いたします。
- 特典6 翌年シーズンへの最優先継続権 お席を最優先で確保いたします。
- 特典7 チケット割引 主催公演チケットが定価の10%割引になります（一部対象外あり）。

▶ 新規
定期会員券
発売日

- ・最優先発売（賛助会員）11/10(金) 10:00 *お電話のみ
- ・優先発売（東京フィルフレンズ）11/11(土) 10:00 *お電話のみ
- ・WEB優先発売 11/11(土) 10:00～12/4(月)23:59 [定価の10%オフ]
- ・一般発売 12/5(火) 10:00

▶ お申込み・お問い合わせ 東京フィルチケットサービス

TEL **03-5353-9522**

WEB <https://www.tpo.or.jp/>

営業時間：平日10時～18時 定休日：土日祝日・年末年始
※チケット発売初日の土日祝のみ10時～16時営業



東京フィル 🔍 検索

東京フィルフレンズ / 入会金・年会費無料で、主催公演チケットを優先発売日より定価の10%割引でお求めいただけます（一部除く）。入会のお申込みは東京フィルチケットサービス（03-5353-9522）までお電話ください。

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団
協力：Bunkamura（オーチャード定期演奏会）

ご注意！ 未就学児の入場はお断りしております。やむを得ない事情により、出演者・演奏曲目・曲順などが変更となる場合がございます。公演中止の場合を除き、お求めいただいたチケットの払戻・変更等はいたしません。

料金など詳細は定期演奏会2024特集ページをご覧ください



2024シーズン 定期会員券の販売について

2023シーズン定期会員券をご購入のお客様の継続について

2023シーズンの定期会員券をご購入いただいたお客様には、10月中旬に継続のご案内をお送りしております。ご確認いただき、期日までにお手続きをお済ませください。よろしくお願いいたします。

新規定期会員券発売日

最優先発売(賛助会員) 11月10日(金)10:00～ ※お電話のみの受付

優先発売(東京フィルフレンズ) 11月11日(土)10:00～ ※お電話のみの受付

WEB優先販売 11月11日(土)～12月4日(月)23:59 ※インターネットからの申込みで定価の10%オフ

一般発売 12月5日(火)10:00～

料金 ()内は東京フィルフレンズ料金

○8回券(オーチャード定期演奏会/サントリー定期シリーズ/東京オペラシティ定期シリーズ)

SS席¥96,000 S席¥56,000(¥50,400) A席¥47,600(¥42,840)

B席¥39,200(¥35,280) C席¥30,800(¥27,720)

○6回券※

東京オペラシティ定期シリーズ

A席¥35,700(¥32,130) B席¥29,400(¥26,460) C席¥23,100(¥20,790)

サントリー定期シリーズ G席¥12,000(¥10,800)

※6回券について: 2024シーズンの3月・9月定期演奏会では、合唱団の演奏エリアを設けるため、東京オペラシティ定期シリーズでは舞台に近い2階・3階のバルコニー席(A/B/C席)を、サントリー定期シリーズではG席を非売席とし、このエリアのお席の定期会員券は3月・9月定期を除いた「6回券」とさせていただきます。

○1回券(各会場共通)

SS席	S席	A席	B席	C席
¥15,000	¥10,000 (¥9,000)	¥8,500 (¥7,650)	¥7,000 (¥6,300)	¥5,500 (¥4,950)

1回券は定期会員券販売後に残席ある場合のみ販売いたします。席種により販売終了している場合がございますので、あらかじめご了承ください。6回券の定期会員券をご購入のお客様で3月・9月定期演奏会の1回券をお求めの場合は、各公演の1回券最優先発売日よりご購入くださいますようお願いいたします。

※東京フィル賛助会について 東京フィルの賛助会にご入会いただきますと、特典として、最優先発売日に主催公演のチケットをお求めいただけます。賛助会について詳しくは39ページまたは主催公演会場の「ご支援カウンター」でお尋ねください。

お問合せ・お申込み 東京フィルチケットサービス

詳しくは
ウェブサイトまで▶



03-5353-9522(平日10:00～18:00/土日祝休 ※チケット発売初日の土日祝のみ10時～16時営業)

東京フィルWEBチケットサービス <https://www.tpo.or.jp/>

Photo Reports 2023年7月・8月の演奏会より

7月～8月の東京フィルも盛りだくさん。人気シリーズ「午後のコンサート」3公演、文京シビックホールでの「響きの森クラシック・シリーズ」の再開、2023シーズン最大の聴きものである名誉音楽監督チョン・ミョンフンのオペラ演奏会形式『オテロ』、そして8月15日恒例の「ハートフルコンサート」と、多くのお客様にお越しいただきました。

写真＝三浦興一（7/8）、上野隆文（7月定期、8/15）

第30回 平日の午後のコンサート(7/6)
第18回 渋谷の午後のコンサート(7/9)
〈コパケン・クライマックス〉

指揮とお話：小林研一郎

ピアノ：中川優芽花(7/6)*

ヴァイオリン：服部百音(7/9)**

ナビゲーター：朝岡聡(7/6)

コンサートマスター：三浦章宏



7月の「午後コン」はマエストロ・コパケンの“十八番”オール・チャイコフスキー・プログラム



初登場の俊英・中川優芽花さんは初々しいお話とともに確かな演奏を聴かせてくれました

チャイコフスキー／

歌劇『エフゲニー・オネーギン』より

ポロネーズ

ピアノ協奏曲第1番より第1楽章(7/6)*

【ソリスト・アンコール】ドビュッシー／月の光(7/6)

ヴァイオリン協奏曲より第1楽章(7/9)**

交響曲第4番より第1楽章

交響曲第6番『悲愴』より第2楽章

交響曲第5番より第4楽章



服部百音さんはチャイコフスキーの名曲「ヴァイオリン協奏曲」で渾身の演奏

響きの森クラシック・シリーズ Vol. 76 (7/8)

指揮：小林研一郎

ヴァイオリン：服部百音*

コンサートマスター：三浦章宏

チャイコフスキー／

歌劇『エフゲニー・オネーギン』より

ポロネーズ

ヴァイオリン協奏曲*

交響曲第5番



文京シビックホールのリニューアル工事に伴う休館を経て、7月「響きの森クラシック・シリーズ」が2年ぶりに再開。“シリーズの顔”とも言えるマエストロ・コパケンのもとオール・チャイコフスキーをお届けしました

7月定期演奏会 (7/23、27、31)

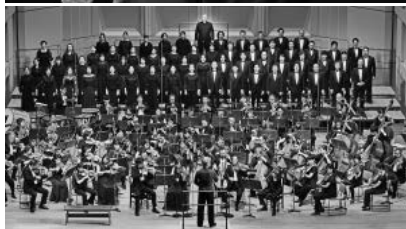
指揮：チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)
オテロ(テノール)：グレゴリー・クンデ
デズデーモナ(ソプラノ)：小林厚子
イアーゴ(バリトン)：ダリボル・イエニス
ロドヴィーコ(バス)：相沢 創
カッシオ(テノール)：

フランチェスコ・マルシーリア
エミーリア(メゾ・ソプラノ)：中島郁子
ロデリーゴ(テノール)：村上敏明
モンターノ(バス)：青山 貴
伝令(バス)：タン・ジュンボ
合唱：新国立劇場合唱団
(合唱指揮：富平恭平)
コンサートマスター：近藤薫

舞台監督：蒲倉 潤(アートクリエイション) / 舞台監督助手：井坂 舞、小田藍乃、三浦奈綾 / 照明：稲葉直人(A.S.G.) / 音響：青木 央(フィガロ サウンドワークス) / 衣裳・小道具：アートクリエイション、東京衣裳 / 字幕：本谷麻子 / 字幕操作：藤原彩加(Zimakuプラス) / カヴァー：山下裕賀(エミーリア) / 副指揮：河原哲也 / 音楽スタッフ：古瀬安子、山中麻鈴

ヴェルディ／
歌劇『オテロ』(オペラ演奏会形式)

全4幕・日本語字幕付き原語(イタリア語)上演 / 原作：ウィリアム・シェイクスピア『オセロー』 / 台本：アッリーゴ・ボーイト



2022年10月の『ファルスタッフ』に続き、ヴェルディの傑作『オテロ』を演奏会形式で上演。題名役は“オテロ歌い”として世界的に著名なテノール、グレゴリー・クンデが担いました



オテロを妬むイアーゴの策略により物語は悲劇へ



最終公演、サントリーホールでのカーテンコールより

フェスタサマーミュージザKAWASAKI (8/2)

指揮：出口大地 ピアノ：清水和音*
コンサートマスター：依田真宣

ハチャトゥリアン／

劇音楽『仮面舞踏会』より“フルツ”
チャイコフスキー／ピアノ協奏曲第1番
ベルリオーズ／幻想交響曲

第31回 平日の午後のコンサート〈真夏の午後の夢〉
(8/7)

指揮：出口大地 ピアノ：清水和音*
コンサートマスター：依田真宣

ハチャトゥリアン／劇音楽『仮面舞踏会』より“フルツ”
“ノクターン” “ギャロップ”

グリーグ／ピアノ協奏曲より第1楽章*

【ソリスト・アンコール】ショパン／ノクターン第10番
作品32-2

ベルリオーズ／幻想交響曲より

第2楽章「舞踏会」、第4楽章「断頭台への行進」

第5楽章「ワルブルギスの夜の夢」

【オーケストラ・アンコール】ハチャトゥリアン／劇音楽
『仮面舞踏会』より“マズルカ”



気鋭のマエストロ出口大地と、巨匠ピアニスト清水和音さんの共演で「真夏の午後の夢」をテーマにお届け。マエストロ出口は今年の東京フィル『第九』公演にも登場します

ハートフル コンサート2023 (8/15)

お話：黒柳徹子(東京フィル副理事長、女優・ユニセフ親善大使)
ゲスト(歌)：森山良子* / 指揮：円光寺雅彦
コンサートマスター：依田真宣

エルガー／行進曲『威風堂々』第1番

ヴォルフ＝フェラーリ／歌劇『マドンナの宝石』間奏曲

J.S.バッハ／グノー編／アヴェ・マリア*

森山良子作詞・BEGIN作曲／涙そうそう*

御徒町風作詞・森山直太郎作曲／今*

寺島尚彦／さとうきび畑*

ストラヴィンスキー／バレエ音楽『火の鳥』(1919年版)

【アンコール】ジョン・レノン／イマジジン



東京フィル副理事長・女優・ユニセフ親善大使の黒柳徹子とゲストの森山良子さん。森山さんの歌声の秘密など楽しいお話や、黒柳のアフリカ訪問中の出来事などが語られました



8月15日恒例の「ハートフルコンサート」は33回目を数え、たくさんのお客様がご来場くださいました

クラシック音楽と私

有限会社オルテンシア 代表取締役
雨宮 睦美



東京フィルゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第20回は、法人後援会員として東京フィルをご支援いただいている有限会社オルテンシア代表取締役、雨宮睦美様。多忙な生活のなかでも東京フィルの定期演奏会へは欠かさずご来場くださっている雨宮様に、音楽とともにある充実した日々について綴っていただきました。



2歳半でピアノを始めました。音大ピアノ科を出た母は、戦後で初期教育を満足に受けられなかった後悔から、娘に託す思いが強かったようです。ピアノは嫌いではなかったし、早く始めたおかげで音感がよいのと初見が効くのはラッキーでしたが、練習熱心だったのは幼いうちだけ。CDや演奏会にも興味なく、ロックやポップスのバンド活動のほうが楽しかった。進路決定を控えた高校時代、「私はそこそこ上手かもしれないけど、この程度のレベルの子は全国に沢山いる。仮に音大に入れたとして私の実力はそこ止まり」などと言ったものだから、母は激怒しましたが、結局私は意志を貫いて一般大学に進み、就職する頃にはピアノに触ることもなくなっていました。

20代半ばを過ぎた頃。仕事に追われ、余裕や潤いがない中で突然「クラシックが聴きたい」と思います。何を聴けばいいかわからず、音楽に詳しい同僚に相談すると、協奏曲から室内楽まで名曲名演を選んで、カセットテープ(時代ですね)を作ってくれました。ピアノ曲以外ほぼ聴いたことがなかった私は、「弦楽器の音色って

職場の同僚が作ってくれたという名曲名演のカセットテープで弦楽器の音色に開眼!



素敵! 私もヴァイオリン弾いてみたい」と口走り、すぐ先生が見つかって、30歳を目前にして習い始めました。そこからの茨の道と言ったら…構え方がおかしい、どうすれば力が抜けるの、なんで弓が曲がるの、この変な音は何、先生にはなぜ私の苦悩が伝わらないの…語りだしたらキリがないので割愛しますが、要するに、大人になって楽器を始める苦労は並大抵のものではない、ということです。

やがて友人に誘われてアマチュアオーケストラの見学に行き、オーディションもなかったのもオーケストラ経験ゼロのまま入団。これが15年ほど前のことでした。今では忙しい忙しいと言いながら2団体掛け持ちしています。

不思議なことに、時間と若さがたっぷりあって、お金も親が出してくれた頃は乗り気でなかったクラシックの世界に、今や時間とお金をつぎ込んで身も削り、へとへとになりながら浸っています。でもこれが楽しいのです。東京フィルの演奏会へ通うことも、大きな刺激と勉強になっています(東京フィル支援のきっかけを教えてくれたのも、かつてカセットテープを作ってくれた方で、私は一方的に音楽

の師と仰いでおります)。ピアノも、技術的には後退していても、今の方が情感を込めて弾けます。そして、ひとりでは絶対に奏でられないオーケストラの音の渦に身を任せる喜びを知ってしまったので、もう少し頑張ってみようかなあ、と思うこの頃なのです。



2023年夏の発表会ではモーツァルトのソナタを演奏

雨宮睦美(あめみや・むつみ)／マーケティングプランナー、モデレーター。

1966年東京生まれ。青山学院大学卒業。株式会社博報堂勤務を経て、2001年有限会社オルテンシアを設立し、現在に至る。趣味はヴァイオリン演奏。中央フィルハーモニア管弦楽団、友好音楽祭オーケストラに所属。

日増しに秋の深まりを感じる季節となりましたが、
皆様におかれましてはご健勝のことと存じます。
今月は、初来日のマエストロによる指揮のもと、情熱的な演奏をお届けいたします。
マエストロとソリスト、楽団員が奏でる音色をお楽しみください。
引き続き、当楽団を何卒よろしくお願い申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。
ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、
改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニーグループ株式会社	代表執行役 社長 COO 兼 CFO	十時 裕樹
楽天グループ株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)IIIH 代表取締役社長 井手 博	(株)インターテキスト 代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団 代表理事 宮内 義彦
(株)アイエムエス 取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株) 代表取締役社長 芝田 浩二	カシオ計算機(株) 代表取締役社長 CEO 兼 CHRO 増田 裕一
(医)相澤内科医院 理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長 有吉 伸人	キヤノン(株) 代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫
アイ・システム(株) 代表取締役会長 松崎 務	大塚化学(株) 特別相談役 大塚 雄二郎	(株)グリーンハウス 代表取締役社長 田沼 千秋
(株)アシックス 取締役会長 尾山 基	(株)オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄	サントリーホールディングス(株) 代表取締役社長 新浪 剛史

信金中央金庫
理事長 柴田 弘之

(株)J.Y.PLANNING
代表取締役 遅澤 准

(株)滋慶
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)
代表取締役会長 小澤 勉

ソニーグループ(株)
代表執行役 社長 COO 兼 CFO 十時 裕樹

ソニー生命保険(株)
代表取締役社長 高橋 薫

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO 村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長 澤田 太郎

都築学園グループ
総長 都築 仁子

東急(株)
取締役社長 堀江 正博

東京オペラシティビル(株)
代表取締役社長 長島 誠

東レ(株)
代表取締役社長 大矢 光雄

TOPPANエッジ(株)
代表取締役社長 添田 秀樹

DOWAホールディングス(株)
代表取締役社長 関口 明

(株)ニチケアパレス
代表取締役社長 秋山 幸男

(株)ニフコ
取締役会長 山本 利行

日本ライフライン(株)
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)
代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行
頭取CEO 福留 朗裕

三菱地所(株)
執行役社長 中島 篤

三菱倉庫(株)
相談役 宮崎 毅

(株)三菱UFJ銀行
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)
代表取締役 田中 めぐみ

(株)明治
代表取締役社長 松田 克也

森ビル(株)
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)
代表取締役社長 長尾 裕

(株)山野楽器
代表取締役社長 山野 政彦

ユニオンツール(株)
代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベシア
理事長 今西 宏明

楽天グループ(株)
代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史

(株)リソー教育
取締役会長 岩佐 実次

後援会員

(株)アグレックス
代表取締役社長 山本 修司

(医)エレル たにぐちファミリークリニック
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院
理事長 加藤 徹

(医)康明会
理事長 遠藤 正樹

(医)だて内科クリニック
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺
代表役員 若林 隆壽

(一財)凸版印刷三幸会
代表理事 金子 眞吾

(株)トレミール
代表取締役 茶谷 幸司

(株)日税ビジネスサービス
代表取締役会長兼社長 吉田 雅俊

(株)ネスト
代表取締役 太田 潤

富士通(株)
代表取締役社長 時田 隆仁

本田技研工業(株)
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)
執行役社長 漆間 啓

ご支援の御礼とお願い

昨今の社会情勢において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団は、1911年（明治44年）に創設され、この西洋発祥の音楽文化を日本の近代化の中でいち早く受容し、様々な試行錯誤を繰り返しつつ、音楽を社会に届けるという使命を貫いて参りました。

東京フィルは世界でも数少ない自主運営の楽団です。

今後さらに安定的・発展的な財政基盤を構築し、いっそうの発展をはかるために、皆様のご寄附が力となります。

皆様におかれましては、あらためて当団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、一層のご支援・ご助力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。東京フィルが取り組む、実り豊かな未来を創る活動へのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただけましたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会（次ページ）も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行（郵便振替）	00120-2-30370	公益財団法人
三井住友銀行・ 東京公務部(096)	普通預金 3003239	東京フィルハーモニー 交響楽団

※ ご寄附の金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、お手数ですがお振込後に、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項をご記入の上、下記へご送付ください。

寄附申込書はこちらからも取得いただけます。

https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf



【ご支援のお問合せ／寄附申込書 送付先】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel 03-5353-9521（土日祝日を除く10時～18時）

東京フィル 賛助会 会員募集中

2023年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立112年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後とも社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

種別		年会費1口
オフィシャル・サプライヤー		詳細はお問い合わせください。
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
	ワンハンドレッドクラブ	100万円
	フィルハーモニー	50万円
パートナー会員	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラプソディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリュード	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。
その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「ご支援カウンター」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野^{かのまた}・鹿丈)

電話: 03-5353-9521 (平日10時～18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演事業)」

文化庁が主催する本事業として、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。2022(令和4)年度の「文化芸術による子供育成推進事業」では、東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受けました。今年度も6月から12月にかけて、小中学校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催しております。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

留学生の演奏会ご招待…留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文

“とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切にさせていただきます。

【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス

電話：03-5353-9522(10時～18時/土日祝休)

7月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

樋口 順子、O.T.、T.K. (ほか匿名希望14名)

(五十音順・敬称略)

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- ・ 周年事業や記念イベントとして大切なお客様を招待したコンサートを開きたい
 - ・ 商品や新事業のプロモーションとして何か施策を考えたい
 - ・ 式典や学会などでの演奏を企画したい
 - ・ 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
 - ・ 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
 - ・ 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい
- どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

電話：03-5353-9521 (平日10時～18時) Eメール：partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ヨンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水鳥 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

本堂 祐香
Yuuka Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michio Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔○
Daisuke Kato

今川 結☆
Yui Imagawa

杉浦 文☆
Aya Sugiura

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	梶 彩乃 Ayano Kaji
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	辻 姫子○ Himeko Tsuji	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	遠藤 柊一郎 Shuichiro Endo	佐竹 正史◎ Masashi Satake	磯部 保彦 Yasuhiko Isobe	石川 浩 Hiroshi Ishikawa	ライブラリアン Librarian
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	小笠原 茅乃 Kayano Ogasawara	岡村 彩香 Ayaka Okamura	大東 周 Shu Ohigashi	五箇 正明 Masaaki Goka	武田 基樹 Motoki Takeda
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	杉本 真木 Maki Sugimoto	木村 俊介 Shunsuke Kimura	藤田 恵輔 Keisuke Fujita	ステージマネージャー Stage Managers
石川 剛 Go Ishikawa	小栗 亮太 Ryota Oguri	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	田場 英子 Eiko Taba	山内 正博 Masahiro Yamauchi	
大内 麻央 Mao Ouchi	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	クラリネット Clarinets	塚田 聡 Satoshi Tsukada	チューバ Tubas	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
太田 徹 Tetsu Ota	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	豊田 万紀 Maki Toyoda	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	大田 淳志 Atsushi Ota
菊池 武英 Takehide Kikuchi	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	山内 研自 Kenji Yamanouchi	荻野 晋 Shin Ogino	古谷 寛 Hiroshi Furuya
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki	中村 元優 Motomasa Nakamura	黒尾 文恵 Fumie Kuroo	山本 友宏 Tomohiro Yamamoto		
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa		黒尾 文恵 Fumie Kuroo	トランペット Trumpets	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	フルート Flutes	鳥潟 さくら Sakura Torigata	川田 修一◎ Shuichi Kawata	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	神田 勇哉◎ Yuya Kanda	林 直樹 Naoki Hayashi	野田 亮◎ Ryo Noda	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	ファゴット Bassoons	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	秋田 孝訓 Takanori Akita	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	木村 達志 Tatsushi Kimura	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	前田 寛人 Hirohito Maeda	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
		井村 裕美 Hiromi Imura	中村 勇輝 Yuki Nakamura	縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa	船迫 優子 Yuko Funasako	船迫 優子 Yuko Funasako	
		森 純一 Junichi Mori	古谷 はるみ Harumi Furuya		

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆ファオアシューラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バティストニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルバスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』『いないいないばあっ!』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2023, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 112th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, Tokyo Phil regularly performs both symphonies and operas. Tokyo Phil is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting Tokyo Phil since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

Tokyo Phil has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand musical agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

Tokyo Phil has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



©上野隆文

東京フィルWEB



役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 啓介
専務理事	篠澤 恭助		瀬谷 博道
石丸 恭一	田沼 千秋		日枝 久
	寺田 琢		
常務理事	遠山 敦子		
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	大和田 皓	河野 啓子	清水 真佐子	長池 陽次郎	古野 淳
池田 敏美	岡部 純	近藤 勉	瀬尾 勝保	長岡 慎	細川 克己
糸井 正博	小樽 敦子	今野 芳雄	高岩 紀子	長倉 穰司	細洞 寛
今井 彰	小山 智子	齊藤 匠	高野 和彦	新田 清枝	本田 詩子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	松澤 久美子
岩崎 龍彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 良	二宮 純	湊 貞男
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	野仲 啓之助	宮原 真弓
上野 眞行	金崎 真由美	桜木 弘子	田中 千枝	畑中 和子	山屋 房子
生方 正好	川人 洋二	笹 翠	田村 武雄	玻名城 昌子	吉田 啓義
大兼久 輝宴	木村 友博	佐々木 等	津田 好美	福村 忠雄	米倉 浩喜
大澤 昌生	黒川 正三	佐野 恭一	戸坂 恭毅	藤原 勲	脇屋 俊介

〈発行日〉2023(令和5)年10月18日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉歐文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)

～コンサートをお楽しみいただくために～

♪チケットの座席番号もチェック！

- ・本日のコンサートは全席指定です。チケットに記載されたお席にご着席ください。

♪開演時間もチェック！

- ・時間に余裕をもってご着席ください。演奏中のご入場は、固くお断りいたします。
楽章間の入場も楽曲の進行により制限させていただきます。
- ・曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬようご配慮ください。

♪開演前に、お手元のお荷物や電子機器もチェック！

- ・許可のない録音・録画は固くお断りいたします。
- ・演奏中に、時計やスマートフォン、その他電子機器のアラーム音やディスプレイの光が漏れないよう、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をいま一度ご確認ください。
- ・動いたときに音の出る衣類やバッグ等は足元に。
- ・のど飴類は開封時に音が出ないものをご準備ください。咳が出そうな日はあらかじめお手元やお口の中に。

♪演奏中に気を付けたいことも同時にご確認ください！

- ・演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございます。

マナーを守ってコンサートをお楽しみください♪

当団の実施する新型コロナウイルス感染症予防対策について

- ・会場内でのマスク着脱はお客様ご自身の判断に委ねます。
- ・会場内でブラボー等の声援をされるお客様にはマスクの着用を推奨いたします。
- ・発熱等の体調不良のお客様にはご来場を控えていただきますようお願いいたします。
- ・会場内では咳エチケットおよび手指消毒の実施をお願いいたします。

客席内は十分な換気を行っております。

ご協力、誠にありがとうございます。

Tokyo Philharmonic Orchestra
Season 2023

